

# 第1学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

花巻市立東和中学校

平成23年11月11日（金）5校時

指導学級：1年1組（場所：1年1組教室）

（男子17名女子14名 計31名）

指導者：教諭 伊藤 俊勝

1 単元名 第3章「中世の日本」（東京書籍） 「武士の台頭と鎌倉幕府」

2 単元について

（1）教材観

本単元は、学習指導要領「歴史的分野」（3）「中世の日本」

ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。

を受けて設定したものである。

武士は、貴族や朝廷の警護、地方反乱の鎮圧などで活躍する中で武士が成長していくが、そこに土地をめぐる様々な動きもみられ、武士の成長と共に武士の願いとして淘汰された土地制度ができていく。本格的な武家政権である鎌倉政権は、荘園・公領という古代の国家機構を受け継いでいる一方、領地を媒介とした主従関係（いわゆる「ご恩と奉公」）を通して成り立っている前期封建社会であり、武家社会の基盤となる土地（領地）を保障する制度をつくりあげた。この主従関係は鎌倉幕府の成立基盤として機能し、その後の「室町」、「安土桃山」、「江戸」の時代にも引き継がれていく。

また、農業技術や手工業・商業の発達により生活が向上していくが、民衆の活力を背景にして生み出された新しい文化の特色である鎌倉文化の力強さを捉えさせたい。

（2）生徒観

生徒の授業に対する取り組みは概ね良いものの、基礎的な学力が十分身につけていない生徒が数人おり、自分の考えを発表する段階で、特定の生徒を除き、なかなか自分から挙手・発言ができないのが現状である。校内テストの結果からみると、男子と女子の平均の差は10点以上あり、特に男子は、その授業限りの学習という意識が強く、確かな学力として定着していない生徒が多いと思われる。

（3）指導観

武家政権の成立は、大きな歴史の変わり目であり、1つの歴史的事象は、前の事象の結果としてあり、また次の事象の原因となっているという視点を実際の事件を通して把握させたい。また学習内容を整理するために学習プリントを活用して基礎・基本の定着を図ると同時に、既習事項を確認し、自分の考えの根拠を明確にさせながら考えさせ、学習を振り返ってまとめさせたり、小集団で考えを深める場を設定したりして、確かな表現力を育んでいきたい。

### 3 単元の目標

- (1) 武士が台頭し、武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動きに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 武家政権が成立し武士の支配がしだいに全国に広まり、武家社会が発展していった流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化などから多面的・多角的に考察し、まとめたり、説明したりすることができる。(思考・判断・表現)
- (3) 武士が台頭し武家政権が成立したこと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関すること等、様々な資料を活用することができる。(資料活用)
- (4) 武士が台頭し、武家政権が成立し、その後武士の支配が広まっていったことを理解することができる。(知識・理解)

### 4 単元の指導計画と評価規準

時	学 習 内 容	評 価 規 準			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
1 本 時	武士の成長	武士が成長していく過程を意欲的に調べようとする。			政権の移り変わりに着目しながら武士が成長していく様を理解している。
2	武家政権の成立		北条政子の訴えを読み、朝廷と幕府の勢力関係、将軍と御家人の関係を考察している。		武家政権が東国に生まれ、支配力を広げていったことを幕府と朝廷の関係などから理解している。
3	武士の成長と民衆の動き			「一遍聖絵」や御成敗式目から武士の生活の様子を読み取ったり、まとめたりしている。	鎌倉時代の農業技術や手工業・商業の発達にもなう生活の向上について理解している。
4	鎌倉時代の宗教と文化		鎌倉仏教が中世を通して多くの人の心を捉えて広まっていった理由を、教えの特色や社会の動きと関連させて考察している。	東大寺南大門などから、鎌倉時代の文化の特色を読み取ったり、まとめたりしている。	

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ①武士が誕生し、戦乱を通して勢力を広げ、中央に進出していく過程を意欲的に追究することができる。
- ②武士が台頭し、武士の力が天皇や貴族内の争いを解決する手段となり、武家政権が成立していくことを理解できる。

### (2) 本時の展開

☆「確かな表現力」のための手立て

	学 習 活 動	指導上の留意事項	資料・教具など
導 入	1.平清盛、源頼朝が新しい身分である「武士」であることをつかむ。  2.武士が当初、どんな仕事をしてきたのか、予想させる。	・平清盛、源頼朝の人物画を提示し、「戦い」を通して、政権を握ったことを想起させたい。  ・「戦い」というより、自衛のためであることをつかませたい。	・人物画  ・国司に仕える武士（絵図） ・貴族を警護する武士（絵図）
5 分	3.学習課題を把握する。  武士がなぜ生まれ、どのように成長していったのか。	・約 700 年続いた武家政権のはじまりに当たることに気付かせ、課題意識を持たせたい。	・年表
展 開	4.課題に対する予想を考え、発表する。 土地を守るため。 治安が悪かったので、貴族の警護をするため。 集団をつくり、勝ち抜いていったのではないか。	☆予想したことを書かせ、全員に自分の考えを持たせる。（記述） ☆小集団で話し合うことにより、多くの意見を引き出すようにする。 ・小集団で出された意見を発表させ、以後の追究に活かす。	
5 分	5.学習課題を追究する。 (1)資料集から武士の戦いと思われるものをあげる。  (2)武士団がつくられていく過程を調べる。  (3)院政期に起こった保元・平治の乱における武士の役目について考える。	・時間をかけずに答えさせる。  ・武士団が各地にできるが、桓武平氏、清和源氏という棟梁を頂点とするピラミッド型になっていくことを把握させる。  ・保元の乱が天皇家の争いであることを把握させる。 ・平治の乱が武士団の対立であることを把握させる。	年表  「平将門の乱」 （絵図）  保元の乱 平治の乱の 対立図

	(4)平治の乱で勝利した平清盛が政権を握ったことをつかむ。	・平清盛が 1167 年太政大臣となったことを確認する。	年表
終末 7分	6.本時の学習を振り返り、学習課題についてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">貴族の警護・国司に仕えていた武士が戦乱を通し、勢力を伸ばし、天皇や貴族内の争いを解決する最終手段となった。</div> 7.次時の学習内容を確認する。	☆本時の内容について学習事項を自分のことばでまとめさせる。 ・机間巡視で確認する。 ☆数人に発表させ、ポイントを確認しながら良さを評価する。	

(3) 評価

評価規準	概ね満足できる状況	未達成の場合の手立て
【意欲・関心・態度】 武士が成長していく過程を意欲的に調べようとする。	武士の生活や生き方に関心を持ち、資料の文章・絵・写真などを活用しながら、その姿を捉え、ワークシートに記入している。	史料の比較により、武士の数や描かれている場所などから武士の成長を読み取らせながら励ます。
【知識・理解】 政権の移り変わりに着目しながら武士が成長していく様を理解している。	地方で起こった武士が、戦乱を通してしだいに勢力を伸ばし、政治の実権を握るようになったことを捉えている。 (6の学習場面→ノート・発言)	・机間巡視により、個に応じた助言を行う。 ・小集団で教え合うようにさせる。